



## 施設園芸技術指導士としての抱負

富岡 康史 MKVアドバンス(株) 農業資材営業部 大阪営業所

私は現在、農業用のフィルム及び関連資材のメーカーであるMKVアドバンスの営業として近畿圏では施設園芸の主要県である高知県を中心に活動しています。入社するまで農業とは全く縁がなく、作物栽培や施設園芸に関する知識がない状態から約10年、施設園芸に付随する被覆資材を中心に営業活動を行ってきました。

現場(生産者様)を訪問する度に痛感したのは、自社製品に関連する知識(農ビ・農PO・マルチ・不織布といった、いわゆる被覆材)だけでは、生産者様と栽培や経営といった全体的な目線の話をするには圧倒的に知識が不足しているということでした。そこで、自分自身でも小さいスペースながら作物を栽培することで農業の難しさを知り、また小まめに生産者様やハウスの新設現場などに訪問をさせていただき現場の世界を知ることで知識を増やしてきました。

今回新たに「施設園芸技術指導士」の受験に挑戦するのに際し、数年かけて施設園芸技術講座の初級・中級を受講し、今まであまり関わりのなかった環境制御技術や災害対策といった施設全体に関する基礎、それ以外にも病虫害対策や流通に関する分野などを一から学ぶことで無事資格を取得することが出来ました。これもひとえに普段お世話になっている生産者様や最前線にいる販売店様、会社の先輩方のご指導のおかげと感謝いたします。

ただこの資格を活かすためにも、今後より一層現場に入り込み生の情報に基づいて知識をアップデートし、生産者様の課題解決につながる提案が出来るようになりたいと考えています。営業活動を通じ農家の農業収入が増え、農業に魅力を感じて農業を志す人が増加

することで微力ながら地域の活性化につながる事ができるように日々精進して参ります。

現在の日本の農業は、過去に例を見ない激甚化した自然災害、高齢化と後継者不足、あらゆる物価の高騰やTPPに関連する農業経営の問題、耕作放棄地の増加、使用済プラスチックの処理に関連する環境問題等、国内農業の発展を阻害する課題が山積する厳しい状況にあると思います。

その一方で、高付加価値の「Made in Japan」ブランドは海外でも人気が高く農産物の海外輸出は伸び続けています。世界的にも人口増加による食料需要の増加やウクライナ侵略等を背景とした食料の安定供給に対する意識は高まっています。

国内でも食料自給率の向上、みどりの食料システム戦略に基づいたカーボンニュートラル実現への取り組みや、食料安全保障の強化を図るべく「食料・農業・農村基本法」の見直しが行われるなど、日本の農業政策は大きな転換点の中にあると感じています。

当社は社名こそ変遷していますが、1951年に農ビを発売して以降、一貫して各種農ビや「ダイヤスター」「アグリスター」といった耐久塗布農PO分野を中心に多くの商品を提供しご愛用頂いており、被覆資材分野に於いては70年以上の知見と知識があると自負しております。営業担当としてまた施設園芸技術指導士として、現場からのニーズ、問題点を掴んだ上で、当社が長年にわたり培ってきた知見と知識を活かし、農業業界の追い風となるような商品開発に繋がっていきたいと思います。日本のためにも農業業界はまだまだ盛り上がる業界になるべきだと考えています。是非皆様一緒に業界が盛り上がるように頑張りましょう。